

事務事業マネジメントシート(平成25年度実績と平成26年度計画)

平成26年 8月14日 更新

事務事業名		男女共同参画まちづくり講座事業					☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連					
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり				所属部	総務部	課長名	中村誓丞		
	施策	23	人権が尊重される社会づくり				所属課	総務課	担当者名	森田健二 猿渡祥子		
	基本事業	77	男女共同参画社会に対する理解の促進				所属班	総務・男女共同参画班	(内線)	1217		
予算科目		会計一般	款2	項1	目15	事業連番10905	法令根拠	男女共同参画社会基本法、合志市男女共同参画まちづくり条例			成果優先度評価結果	①
											コスト削減優先度評価結果	②
終了、開始年度		☐ 25年度で終了 ☐ 25年度から開始					事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (~ 年度)				

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】 (開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	・男女共同参画推進の一環として、市民・企業等を対象に啓発イベントを年2回実施している。 ・男女共同参画社会基本法(1999年制定)により自治体の推進義務が発生し、講座を予算化。2006年の新市施行により、統合して講座を継続実施している。 ・法律や制度上ではかなり進んできたように見えるが、現状を見ると依然として固定的役割分担意識が残っている等、課題は多い。 ・2007年9月に合志市男女共同参画まちづくり条例が制定され市としての責務がより重くなり、職員や市民の意識改革・啓発を進めているところである。
【業務の流れ】	懇話会を開催し、その中で啓発イベントの講師等の内容を検討する。・市長決裁により実施を決定。・チラシ等で参加者を募る。・講座の開催準備・実施・かたづけ・アンケートの集約・懇話会を開催し、実施結果を振り返る。
【主な予算費目】	職員手当、報償費、消耗品費、役務費、委託料
【意見や要望】 関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	若い世代の参画推進が必要。

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1)事務事業の目的と指標		新規・拡充区分
①手段(主な活動)25年度実績(25年度に行った主な活動)(DO) 懇話会で啓発イベントの内容検討を行い実施した。(①8/20男女共同参画まちづくり講座参加者、230名 ②1/18男女共同参画気づきうなずきフェスティバル参加者、600名) 市民に対して男女共同参画社会の意識付けが出来た。		26年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN) 懇話会で啓発イベントの内容検討 ・1月に男女共同参画気づきうなずきフェスティバル開催。
①活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由
→ア男女共同参画まちづくり講座開催回数	回	事業見直しによる報償費の減
→イ男女共同参画まちづくり講座参加者数	人	
②対象(誰、何を対象にしているのか)※人や自然資源等		②対象指標(対象の大きさを表す指標)
市民(18歳以上)		→ア18歳以上の市民(3月末)
		→イ
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		③成果指標(意図の達成度を表す指標)
・男女共同参画の重要性を認識できるようになる。		→ア男女共同参画の重要性を認識できたと答えた参加者数と割合
・生活に活かしていくようになる。		→イ生活に活かしていこうと思った人の割合
*③成果指標設定の理由と26年度目標値設定の根拠		総トータルコスト
市民の方に男女共同参画の重要性を啓発する目的なので、フェスティバルで実施したアンケートの設問の結果を成果指標とした。		全体計画
		～年度
		0

(2)各指標・総事業費の推移											
		単位	23年度 実績(決算)	24年度 実績(決算)	25年度 目標(当初予算)	25年度 実績(決算)	26年度 目標(当初予算)	27年度 予定	28年度 見込	29年度 見込	
① 活動指標	ア回		2	2	2	2	2	2	2	2	
	イ人		645	566	700	830	700	700	700	700	
② 対象指標	ア人		44,014	47,443	47,000	46,099	47,000	47,000	47,000	47,000	
	イ										
③ 成果指標	ア%		86	55	87	67	87	87	87	87	
	イ%		61	43	62	45	62	62	62	62	
投資 事業 入費 量	財源 内訳	国庫支出金	千円	116							
		都道府県支出金	千円								
		地方債	千円								
		その他	千円								
		繰入金	千円								
		一般財源	千円	52	132	257	150	139	165	165	165
	(A)事業費計	千円	168	132	257	150	139	165	165	165	
		(A)のうち指定経費	千円	11	5	20	8	0	0	0	0
		(A)のうち時間外、特勤	千円	11	5	20	8	0	0	0	0
		正規職員従事人数	人	30	29	4	20	4	4	4	4
人件費	延べ業務時間	時間	331	388	800	329	800	800	800	800	
	(B)人件費計	千円	1,336	1,579	3,256	1,310	3,256	3,256	3,256	3,256	
トータルコスト(A)+(B)		千円	1,504	1,711	3,513	1,460	3,395	3,421	3,421	3,421	

事務事業名	男女共同参画まちづくり講座事業	所属部	総務部	所属課	総務課
-------	-----------------	-----	-----	-----	-----

2 評価の部（SEE）

*原則は25年度的事後評価、ただし複数年度事業は25年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①25年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	☒ 達成した ☐ 達成しなかった ⇒【原因】
	②26年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 ☐ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 参加者が固定化しているが、講演会の内容や講師の選定により、達成できる見込みがある。
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになってないか？	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 ①講師の選定により、内容にバラツキがある。②参加者が固定化、高齢者の参加が多いなど、広がりが少ない。③男性の参加者が少ない。等の現状がある。これらを課題として取り組みを進めることで課題を向上したい。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☒ 他に手段がある⇒（具体的な手段、事務事業） ☐ 他に手段がない ⇒【理由】 ☒ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 男女共同参画まちづくり講座事業・男女共同参画推進啓発誌発行事業・男女共同参画推進研修事業は一体化している事業であり、包括して一事業と捉えることが可能。平成26年度から男女共同参画まちづくり講座事業へ統合予定。
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）	☒ 削減余地がある ⇒【理由】 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】 講師謝金等を削減することで可能である。
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？（アウトソーシングなど）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 必要最小限の人件費なので、削減の余地はない。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 全市民に呼びかけ、人権が尊重される社会づくりに寄与している。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】 懇話会委員にも講座の協力（駐車場係や受付等）をボランティアでやっていただいている。また、市の責務として啓発活動を行わなければならないため適正である。

3 評価結果の総括（SEE） ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

まちづくり講座及びフェスティバルと2回の啓発活動を行ったが、高齢者の参加が多く、若い世代の参加が少ない。限られた予算の中でどう若い世代を呼び込むか課題である。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（PLAN）

<